

あとがき

霧島町にはこれまでに次の郷土誌があった。

『東襲山郷土史』新穂彦熊編 昭和九年発行

『きりしま村郷土誌』村教職員会編

昭和三十二年発行

『霧島町郷土誌』編集委員会編 昭和四十二年発行

昭和六十三年、町制施行三十周年記念事業の一つとし

て『霧島町郷土誌改訂版』を発行することになり、同年

十二月七日次の編集委員が町長から委嘱された。

〔編集委員〕

有馬 純博 入来 岩男 今藤 義男

内村 義幸 児玉 親吉 小園 公雄

逆瀬川正文 高林 義雄 徳田 盛常

中神 俊雄 東芦谷政美 宮田 安彦

本仮屋 実 川田 郁雄（平成元年三月転出）

〔事務局〕

教育長 南 一雄

社会教育課長 小牟田 修

平成元年十一月より 編集事務 小野 郁子

平成二年四月より 社会教育課長 山崎 修一

平成三年四月より 教育長 峯崎 隆男

写真 長野 彰 松永 俊郎 今村 勇

昭和六十三年十二月七日、編集委員の初会合を開き、互選により正副委員長を決定した。

委員長 宮田 安彦 副委員長 今藤 義男

監修は次のとおり依頼することに決定した。

鹿児島大学法文学部助教授 原口 泉先生

その後の会合によって、編集方針は初め昭和四十二年発行の郷土誌を補充し、その後の書き継ぎをする方針であったが、これを全面的に見直し、新規に編集する方針に改められた。

次に編集日程、原稿執筆の分担等を決め、編集作業を進めることになった。以後委員は資料や情報の発掘、収集、執筆などの仕事を進め、必要に応じて部門別や全体会を開き、相互研究や、監修者の指導も仰いできた。

発行については最初の手定よりも一年余り遅れることになったが、これは編集方針の変更もあり、「発刊するからにはよりよいものを」という委員の熱意によるもの

で已むを得ないことであった。この間、忙しい業務の中の時間を割いて編集の仕事を進めていただいた委員の方々や、情報や資料の提供、実地踏査等に進んで協力してくださった多くの方々に心から感謝申し上げます。

我々委員としては最善の努力を尽くしたのであるが、学問の道は深く高く際限がないので、本書にも不備な点が多い。これらについては今後研究のうえ、更によりよい郷土誌が作られることを期待する次第である。

編集委員長 宮田 安彦



霧島町郷土誌参考文献

- | | | | |
|------------------|----------|--------------------------------------|------------|
| 鹿兒島県史 | 鹿兒島県 | 日本史 | 井上光貞外 |
| 鹿兒島県史料 | 鹿兒島県 | 日本国家の起源 | 井上光貞 |
| 鹿兒島の歴史 | 県社会教育研究会 | 西南の役戦袍日記 | 古閑俊雄 |
| 鹿兒島県歴史散歩 | 県高校歴史部会 | 薩摩の古府 | 藤井重寿 |
| 鹿兒島県遺跡地名表 | 県教育委員会 | 宮崎県の歴史 | 日高次吉 |
| 鹿兒島県の歴史 | 原口虎雄 | 萬日記覚帳（文久三年） | 椎原八郎右衛門記 |
| 鹿兒島県埋蔵文化財発掘調査報告書 | 県教育委員会 | 萬日記和帳（元治元年） | 椎原八郎右衛門記 |
| 三州諸家系図纂 | 川崎大十 | 萬日記帳（慶応二年） | 椎原八郎右衛門記 |
| 薩隅日古戦場記 | | 萬日記（明治三十年、同三十四年、同三十六年、同四十年、大正二年、同八年） | 椎原喜之丞記 |
| 薩隅日地理纂考 | 鹿兒島県教育会 | 曾於郡田口村抱地高名寄帖 | |
| 諸家系図 | | 田口大窪川北村抱地浮免高捍札帳 | |
| 和名抄 | | 抱地高大窪川北村竿次捍札帳 | |
| 三国名勝図会 | 原口虎雄監修 | 安永九歳子四月七日 | |
| 日本書紀 | 日本古典文学大系 | 隅州贈於郡田口村御検地門割竿次帳 | |
| 古事記 | 日本古典文学大系 | 鹿兒島県農業史 | 鹿大農学部 |
| 熊襲と隼人 | 井上辰雄 | 鹿兒島県畜産史 | 中村初枝外 |
| 隼人の楯 | 中村明蔵 | 薩隅煙草録 | 宮本又次外 |
| 歴史散歩事典 | 井上光貞 | 歌集高千穂 | 斎藤茂吉 |
| | | 霧島の歌 | 与謝野寛 与謝野晶子 |

かこしまの方言集

小野重朗

鹿児島県統計年鑑

鹿児島県統計協会

霧島の年間気象統計

鹿児島県立農業大学校

霧島町埋蔵文化財発掘調査報告書

霧島町教育委員会

薩藩旧記雑録

鹿児島県

椎原文書

椎原誠治氏所蔵

大隅国郷村高帳

雲遊雜記伝

明赫記

霧島神宮文書

霧島神宮所蔵

東芦谷家文書

東芦谷政美氏所蔵

町内小、中学校沿革史

東襲山郷土史

きりしま村郷土誌

旧霧島町郷土誌

霧島町歴史年表（平成三年十二月）

時代区分	年号	西暦	記	事
旧石器時代			石器が町内各地から発見されている。特に猪子・石白土・遠見松・堀之内・王子原・北永野田などであるが、十分に研究されていない。	
縄文時代			土器に縄目や貝殻の文様がある。野上・狭名田・遠見松より土器片出土。	
弥生時代			市野々・笹之段・入水から土器片出土。法ヶ崎（昭和六十三年の調査で土器片出土）良質の土器・金属器を製作した時代で、稲作も普及した。	
古墳時代		五四〇～ 六四五	欽明天皇の御代、僧慶胤が背門丘に社殿を建て霧島神社を祀る。	
飛鳥時代	大化 元元 大宝 二 和銅 六 養老 三 四 五	六四五 六五五 七〇二 七一二 七一九 七二〇 七二一 七四二	大化の改新。初めて年号の元を定めて大化という。 隼人が衆を率いて上京。 薩摩・多嶺（たね）両国創置。 日向の国の一部を割き大隅国を置く。大隅に国司が置かれた。 大隅国司陽侯火麻呂殺害される。 大伴旅人征隼人將軍として大隅に下向、隼人の反抗を鎮定。 隼人鎮定完了。副將軍も帰京する。	
奈良時代	天平 一四 五	七四二	大隅国大地震。	
神護景雲三	延暦 七	七六九	和氣清麻呂、弓削道鏡のために大飼滝近辺に流罪。	
天慶 八	治安 元	七八八 九四五	霧島山噴火。背門丘にあった霧島神社が噴火のため焼失した。	
万寿 三	一〇二一	一〇二一	性空上人が瀬多尾越（現古宮跡）に霧島神社と別当寺を再建した。	
天永 三	一〇二六	一〇二六	藤原篤如（のち税所）が大隅国曾於郡坂上に居住。	
永久 元	一一二	一一二	大宰府大監平季基が島津荘を開発。	
仁安 二	一一一三 一一六七	一一一三 一一六七	霧島山西峰噴火（二月二日）。 霧島山噴火。 霧島山噴火（二月三日）。	

時代区分		記		事	
年号	西暦				
平安時代					
安元 二	一一七六	このころ税所安弁、法乗坊霧島座主となる。			
治承 元	一一七七	京都鹿ヶ谷の変により僧俊寛・平康頼ら硫黄島へ流罪。大川原・夏木・赤坂・牧神・止上を経て舟出する。			
寿永 二	一一八三	霧島山噴火（一二月一七日）。			
文治 元	一一八五	源頼朝が諸国に守護地頭を置く。島津忠久が島津荘の下司職となった。			
建久 四	一一九三	島津忠久が薩摩・大隅・日向の守護職となった。			
文暦 元	一一九七	薩隅日三州の凶田帳ができた。			
寛元 二	一二三四	霧島山噴火（一二月二八日）のため霧島神社焼失。半田（待世）に仮宮を建てて祀る。			
建治 二	一二四四	税所祐雲、霧島座主職となる。			
	一二七六	元寇に対して西国御家人たち博多湾岸に石塁構築。石築役配布案に田口八丁・大窪六丁・川北五丁の田地記載。			
南北朝時代					
貞治 二	一三六三	税所氏人吉の相良氏と組み、曾於郡一帯を席捲。			
文明一六	一四八四	島津忠昌が僧兼慶に命じて、現在地に霧島神社と華林寺を再建させる。			
大永 元	一五二一	樺山長久、大窪・河北・臼崎・持松を支配する。			
二	一五二二	本田親高、大窪・河北・臼崎・持松を領す。			
四	一五二四	霧島山噴火。			
六	一五二六	北郷二郎右衛門久利が曾於郡地頭。			
天文一二	一五四三	ポルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた。			
二〇	一五五一	島津貴久、霧島神社に田口門二十町分米二〇〇石寄進する。			
二三	一五五四	霧島山噴火。			
弘治 元	一五五五	島津貴久、霧島神社に戦勝祈願する。			
四	一五五八	永野田の七社神社に、この年代の午卯月吉日の棟札がある。			
永祿 九	一五六六	霧島山大噴火、人多く死ぬ（九月一九日）。			
一一	一五六八	島津義久、霧島神社に坂之上門寄進。			
一二	一五六九	曾於郡之内に小窪名とある。			

719

時代区分	年号	西暦	記	事
江戸時代	宝永 一六二	一七〇三 一七〇五	妙見神社を春山から牧神の現在地に移す。 華林寺より火を発し寺院社殿全焼。 霧島山噴火（二月十五日）。	
	正徳 五元	一七一五 一七一六	前田利右衛門が琉球から甘藷を山川に移植した。 島津吉貴が霧島神社を建造した（現在の社殿である）。 霧島山大噴火。家屋焼失六〇〇軒、負傷三一人、牛馬四五〇頭死す。田畑六、二四八反余被害（九月二六日）。二月一八日にも噴火あり。	
	元文 二五	一七一一 一七三六	伊田用水路開設。新燃岳噴火（一月三日・八月十五日）。 琉球から孟宗竹二株が贈られ、磯別邸に植える。	
	宝暦 五八	一七五五 一七七二	木曾川治水工事竣工。総奉行平田鞆負自刃。 霧島山噴火。	
	明和 八九	一七八〇 一八〇二	「御救検地帳」には、「田口村門九・屋敷一八・浮免七」とある。 「島津国史」ができる。	
	享和 二七	一八一〇 一八二一	伊能忠敬藩内測量着手。 中岳噴火（二月二〇日）。	
	文化 四七	一八二一 一八四三	「三国名勝図会」六〇巻成る。	
	天保 一四	一八四三 一八五四	米使ペリー軍艦四隻を率い、浦賀に入港。	
	安政 元三	一八五四 一八六三	薩英戦争。	
	文久 三三	一八六三 一八六四	椎原八郎右衛門、八月一九日の蛤御門の戦（禁門の変）に参加。	
	元治 元三	一八六四 一八六七	大政奉還。桂久武桂内閣に着手。桑原武右衛門・崎山清太郎など一〇戸入居して開拓に従事する。	
	明治 元二	一八六八 一八六九	神仏分離令布告。廃仏毀釈の実施。 藩内の寺院を全廃し、寺領を没収。華林寺も廃寺となる。 入水永野田に学問所を設置。 版籍奉還（全国の大名が領地と領民を朝廷に返したこと）。	

代	時	治	明
三	一三	二二	三〇
一八七〇	一八八〇	一八八八	一八九七
大窪に練字館を設置。			
四	一四	二一	二八
一八七一	一八八一	一八八八	一八九五
廃藩置県令により鹿児島県設置。曾於郡郷は襲山郷となり都城県に所屬。練字館廃止。			
五	一五	一八	二九
一八七二	一八八二	一八八五	一八九六
田口・梅北に村校を設置。学制・徴兵令発布。太陽曆採用。			
六	一六	二二	二八
一八七三	一八八三	一八八八	一八九五
都城県を廃し襲山郷は鹿児島県に所屬。			
七	一七	二二	二八
一八七四	一八八四	一八八八	一八九五
霧島神宮が官幣大社となる。大窪郵便取扱所開設。戸籍編成実施。			
八	一八	二二	二八
一八七五	一八八五	一八八八	一八九五
郷校を廃して東襲山小学校と改称し、入水学区所は入水分校となる。			
九	一九	二二	二八
一八七六	一八八六	一八八八	一八九五
信教の自由を公認。			
一〇	二〇	二二	二八
一八七七	一八八七	一八八八	一八九五
西南戦争起こる。九月西郷隆盛自尽。			
一一	二一	二二	二八
一八七八	一八八八	一八八八	一八九五
田口・大窪小学校開校。			
一二	二二	二二	二八
一八七九	一八八九	一八八八	一八九五
鹿児島県において地租改正に着手。村内の土地を実測し地図作成。田口半田（待世）に戸長役場を設置、戸長川越半兵衛。永野田・入水・霧島の三小学校開校。			
第一回県議會議員選挙。ランブ・ランツケギ（マッチ）・ラン傘・鉛筆・時計など洋式日用品が使われ始める。霧島御鉢噴火（九月）。			
東襲山小学校敷地内に招魂碑建立。鹿児島新聞創刊。			
村田為三（新地に開業していた医師）が横岳開拓を計画したが、協力者なく中止。			
田口に真宗の説教所を設立。霧島山大噴火（一月）。			
霧島山大噴火（一月二十七日）。			
市町村制施行。襲山郷は東襲山村となり村長島田親恵。半田戸長役場は、田口・大窪・川北の事務を扱う。上村武助・上村林左衛門・修行次郎右衛門、横岳用水路開設に着手し、一年後に開通。約一八町歩の水田開拓。村議會議員選挙。憲法発布。			
教育勅語公布。衆議院議員選挙。			
入水・永野田小学校を統合して笹之段に永水小学校を開校。霧島山噴火（六月一九日）。			
日清戦争起こる。			
日清戦争終結、下関講和条約締結。			
大窪・田口小学校を統合して半田（待世）に大田小学校を開校。大窪巡查駐在所設置。浜之市・霧島宮崎県境間に県道開道。産馬組合設立。霧島山噴火（三月一五日）。			
西嶺嶽・始良・桑原三郡を廃し始良郡を置く。			

時代区分		年号	西暦	記 事
大正	明治			
大正三	明治三一	三三	一八九八	霧島山噴火（一月二六日）。鹿兒島市に電灯つく。
四	三三	一九〇〇	霧島山噴火（二月一六日）。	
五	三四	一九〇一	大田小学校に高等科を設ける。村内に農事小組合設置。田口に天理教分教会。鹿兒島・隼人間鉄道開通。	
六	三五	一九〇二	大田校区婦人会結成。田口の稲葉神社を天子神社に合祀。	
七	三七	一九〇四	日露戦争（同三八年終結）。	
八	三八	一九〇五	霧島山噴火（一月二五日）。	
九	四〇	一九〇七	永水校区婦人会結成。	
一〇	四一	一九〇八	田口に竜泉寺設立。八代・人吉間鉄道開通。	
一一	四二	一九〇九	鹿兒島本線開通（門司・八代・人吉・吉松・鹿兒島）。	
一二	四三	一九一〇	待世神社を天子神社に、尾谷の七社神社と社が迫の七社神社を場集田（向田）の七社神社に合祀。	
一三	四四	一九一一	霧島山噴火（一月八日）。桜島大噴火（一月二二日）。第一次世界大戦。鹿兒島・川内間鉄道開通。	
一四		一九一四	外園平次郎、栢田に水力による製材所を開業。	
一五		一九一五	田口に水力による精米所開業（原田）。	
一六		一九一六	各小学校に実業補習学校付設。	
一七		一九一七	上松瀬栄次、田口製茶工場を設置。	
一八		一九一八	村内に電灯導入。大窪に私設消防組合発足、組長鶴木幸蔵。	
一九		一九一九	宮迫用水路開設（永水小下からトンネルで導水）。	
二〇		一九二〇	栗野・山野間鉄道開通。	
二一		一九二一	霧島第二発電所（上流）運転開始。	
二二		一九二二	関東大震災。川内・米之津間、串良・古江間鉄道開通。	
二三		一九二三	東襲山・清水村に小作争議起こる。入戸・財部間県道開通。	
二四		一九二四	NHKラジオ放送開始（東京）。	
二五		一九二五	郡制廃止。小鹿野魚道開設。	
二六		一九二六		

昭和	代	時	和	昭
二	三	一	一八	二五
一九二七	一九二八	一九三三	一九四三	一九五〇
霧島神宮境内参道改修完成。	霧島・国分間鉄道開通。産業組合発足。	霧島が国立公園に指定される。各市町に方面委員（民生委員）を置く。	霧島牧野組合設立（横岳）。	霧島中学校一期工事竣工。松永は隼人町に編入。重久の大部分が東襲山村となり田口・大窪・川北・永水が霧島村となる。役場庁舎竣工。大道教霧島支部教会設立。
五	六	九	一九	二四
一九三〇	一九三一	一九三四	一九四四	一九四九
満州事変起こる。『東襲山郷土史』発行（新穂彦熊編）。霧島・丸尾間道路開通。	日豊線（都城・隼人間）開通。北永野田に製茶工場設立。巡查駐在所を大窪から現在地に移転。	霧島郵便局に電信電話開通。	霧島・永水に分校を置く。	大窪診療所開設。
七	八	一〇	二〇	二二
一九三二	一九三三	一九三五	一九四五	一九四七
霧島郵便局に電信電話開通。	霧島が国立公園に指定される。各市町に方面委員（民生委員）を置く。	昭和天皇霧島神宮に御親拝。東襲山村を霧島村と改称。王子原に青年学校を設置。神宮駅・霧島神宮間県道改修。	霧島・丸尾間道路開通。	青年学校廃止。健康保険組合を村営に移管。重久にあった役場が焼失。待世公会堂に移転、霧島農協発足。
八	九	一一	一九	二三
一九三三	一九三四	一九三六	一九四三	一九四八
霧島が国立公園に指定される。各市町に方面委員（民生委員）を置く。	霧島が国立公園に指定される。各市町に方面委員（民生委員）を置く。	日支事変起こる。霧島小に高等科を設置。消防組を警防団と改称各校区に分団を置く。	霧島・永水に分校を置く。	大窪診療所開設。
一〇	一一	一二	二〇	二四
一九三五	一九三七	一九四〇	一九四四	一九四九
昭和天皇霧島神宮に御親拝。東襲山村を霧島村と改称。王子原に青年学校を設置。神宮駅・霧島神宮間県道改修。	霧島郵便局に電信電話開通。	霧島郵便局に電信電話開通。	霧島郵便局に電信電話開通。	霧島郵便局に電信電話開通。
一一	一二	一五	一八	二五
一九三六	一九三七	一九四〇	一九四四	一九五〇
日支事変起こる。霧島小に高等科を設置。消防組を警防団と改称各校区に分団を置く。	霧島郵便局に電信電話開通。	霧島郵便局に電信電話開通。	霧島郵便局に電信電話開通。	霧島郵便局に電信電話開通。
一二	一五	一六	一九	二五
一九三七	一九四〇	一九四一	一九四四	一九五〇
霧島研修館建設（県営）。	太平洋戦争起こる。翼賛壮年団結成。森林組合設立。小学校を国民学校と改称。義務教育を六年から八年とした。	産業組合と農会を合併して農業会を設立。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。
一五	一六	一八	二〇	二五
一九四〇	一九四一	一九四三	一九四五	一九五〇
霧島研修館建設（県営）。	太平洋戦争起こる。翼賛壮年団結成。森林組合設立。小学校を国民学校と改称。義務教育を六年から八年とした。	産業組合と農会を合併して農業会を設立。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。
一六	一九	二〇	二二	二五
一九四一	一九四四	一九四五	一九四七	一九五〇
霧島研修館建設（県営）。	太平洋戦争起こる。翼賛壮年団結成。森林組合設立。小学校を国民学校と改称。義務教育を六年から八年とした。	産業組合と農会を合併して農業会を設立。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。
一九	二〇	二二	二四	二五
一九四四	一九四五	一九四七	一九四八	一九五〇
霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。
二〇	二二	二四	二五	二五
一九四五	一九四七	一九四八	一九五〇	一九五〇
霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。
二二	二四	二五	二五	二五
一九四七	一九四八	一九五〇	一九五〇	一九五〇
霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。
二四	二五	二五	二五	二五
一九四九	一九五〇	一九五〇	一九五〇	一九五〇
霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。
二五	二五	二五	二五	二五
一九五〇	一九五〇	一九五〇	一九五〇	一九五〇
霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。	霧島・丸尾間道路開通。

時代区分		年号	西暦	記 事
昭	和			
		昭和二六	一九五一	<p>サンフランシスコ平和条約調印。有川・小里製茶工場設立。霧島中学校校舎竣工。霧島伝染病棟組合発足。</p> <p>健康保険組合発足。教育委員会発足。</p> <p>NHKテレビ、MBCテレビ放送開始。竜泉寺に保育園を設置。合同七草祝・成人式・敬老会を始める。遺族会、傷痍軍人会発足。</p> <p>町水道事業開始。町営横岳放牧場開始。</p> <p>『霧島村郷土誌』発行。</p> <p>一万円札発行。永水小鉄筋校舎竣工。永池・丸尾間、国分・神宮間道路舗装工事開始、いずれも三十六年竣工。霧島局、神宮前局の電話統合。町制施行さる（一月一）。</p> <p>新燃岳噴火（二月一七日）。町内に納税組合を設置。</p> <p>国民健康保険事業開始。身障者協議会発足。大田小給食開始。</p> <p>町営国民宿舎みやま荘オープン。国民年金制度発足。泉源ボーリング成功。永水小・中給食開始。</p> <p>霧島小・中給食開始。霧島分校は霧島東中学校となる。労災病院業務開始。横岳展望所設置。</p> <p>町営温泉給湯事業開始。霧島中給食開始。猪子石に電気・水道導入。町長寿会の連合会設立。町立母子健康センター設置。国分市三町火葬場組合設立。</p> <p>東京オリンピック開催。霧島中体育館竣工。霧島屋久国立公園指定。</p> <p>建国記念日制定。永水分校は永水中学校となる。町慰霊塔建設。</p> <p>カラーテレビ放送開始。大田小水泳プール竣工。大窪保育園開設。</p> <p>『町郷土誌』発行。</p> <p>明治百年記念式典挙行。町制十周年。永水中学校を霧島中学校に統合。町章、町民歌、町民憲章制定。</p> <p>国民総生産五一兆世界第二位。永水小体育館竣工。小浜町・牧園町・霧島町の姉妹町盟約成立。</p> <p>鹿児島本線電化工事成る。杉安病院オープン。大田幼稚園開設。</p> <p>町中央公民館竣工。老人憩の家田口にオープン。町立大田幼稚園園舎竣工。農村集団電話開通。</p>
		二七	一九五二	
		二八	一九五三	
		三一	一九五六	
		三二	一九五七	
		三三	一九五八	
		三四	一九五九	
		三五	一九六〇	
		三六	一九六一	
		三七	一九六二	
		三八	一九六三	
		三九	一九六四	
		四〇	一九六五	
		四一	一九六六	
		四二	一九六七	
		四三	一九六八	
		四四	一九六九	
		四五	一九七〇	
		四六	一九七一	

昭	和	時	代
六三	五八	五五	四七
六二	五九	五六	四八
六一	五七	五三	四九
六〇		五二	五〇
		五一	五一
		四九	五二
		四八	五三
		四七	五四
		四六	五五
		四五	五六
		四四	五七
		四三	五八
		四二	五九
		四一	六〇
		四〇	六一
		三九	六二
		三八	六三
		三七	六四
		三六	六五
		三五	六六
		三四	六七
		三三	六八
		三二	六九
		三一	七〇
		三〇	七一
		二九	七二
		二八	七三
		二七	七四
		二六	七五
		二五	七六
		二四	七七
		二三	七八
		二二	七九
		二一	八〇
		二〇	八一
		一九	八二
		一八	八三
		一七	八四
		一六	八五
		一五	八六
		一四	八七
		一三	八八
		一二	八九
		一一	九〇
		一〇	九一
		〇九	九二
		〇八	九三
		〇七	九四
		〇六	九五
		〇五	九六
		〇四	九七
		〇三	九八
		〇二	九九
		〇一	一〇〇

日中国交正常化調印。鹿児島空港オープン。太陽国体開催。国分地区消防組合に加入。

町内電話自動化成る。

町立総合運動場竣工。第一回町文化祭開催。

すめら保育園開園。霧島東中体育館竣工。

国民宿舎みやま荘民営移管。霧島中改築完了。町立運動場照明施設竣工。広域農道栗野・牧園間竣工。牧園・霧島間着工。

町立歴史民俗資料館、永水地区公民館竣工。老人福祉バス購入。町道舗装率五七・三割となる。

七月一七日大雨のため霧島川はん濫損害七四〇〇万円。日豊線電化完成。福祉協議会が法人となる。

田口地域公民館竣工。基幹集落センター竣工。第一回霧島国際音楽祭が開催。衆参両院同時選挙実施。白土橋竣工。霧島町役場新庁舎竣工。

霧島郵便局新築、現在地に移転する。高千穂河原に美化管理センター竣工。

霧島中学校体育館及びLIL教室、ランゲージ・ラボラトリ（語学練習室）が落成する。霧島町商工会館新築落成。国道二二三号の霧島大橋（九面・逆矛を高欄につける）竣工。霧島町地籍調査事業始まる。

霧島町民音頭公募、決定。霧島小学校新校舎落成。

県営高千穂河原ビジターセンター落成オープン。全国植樹祭が牧園町高千穂で開催され、昭和天皇が行幸。帰路、霧島町役場にお立ち寄りになる。霧島屋久国立公園指定五十周年記念式典（えびの高原にて）開催。

霧島町商工会青年部による第一回おじゃんせ市開催。霧島東中学校が霧島中学校に統合される。

町文化協会十周年記念誌刊行。

緑の村に丸太作りのバンガロー竣工。第一回ママさんソフトボール大会開催。霧島町行政改革大綱発表。

霧島町消防団が日本消防協会の表彰旗を受賞する。国道二二三号線の霧島神宮下の道が「日本の道」百選に選ばれる。軽費老人ホーム「霧島荘」がオープン。

手籠川橋完成。川北に多目的集施設竣工オープン。県営高千穂河原野営キャンプ場オープン。

県道田口橋完成。小瀬戸橋竣工。西日本一の霧島神宮の大鳥居完成。行政窓口事務に初めてのこ

時代区分	平成時代		
年号	平成元年		
西暦	一九八九 二 一九九〇 三 一九九一		
記事	<p>ンピューター導入。昭和天皇崩御。</p> <p>水流川原にサンビレッジ住宅建設始まる（初年度一二戸）。霧島町広報縮刷版発刊。霧島国際音楽祭十周年を迎える。霧島をテーマにした八号洋画展第一回開催。霧島の四季写真展第一回開催。霧島大橋竣工。新嘗祭献穀本町から森原光雄氏が米を、加治木満男氏が粟を宮中において献穀。霧島町中央公民館が全国優良公民館として文部大臣賞を受賞。</p> <p>町役場、週休二日制を実施。霧島町が新過疎地域特別措置法を適用される。霧島川防災ダム完成。平成橋竣工。広域農道全区域開通（栗野・牧園・霧島・永水区間三〇九六㍓）。</p> <p>サンビレッジ住宅建設完了（四八戸）。遠見松住宅一二戸建設。神話の里公園オープン（七月）。</p> <p>霧島小学校体育館竣工。考人憩いの家の敷地内に、老人福祉作業所竣工。</p>		

霧島町郷土誌

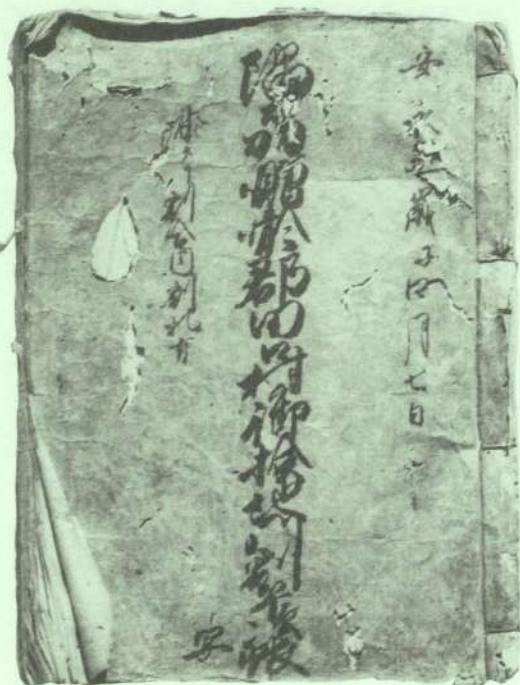
平成四年三月三十一日 印刷

平成四年三月三十一日 発行

編集者 霧島町郷土誌編集委員会
発行 霧島町

鹿児島県始良郡霧島町田口八一四
(TEL) 〇九九五(五七) 一一一一

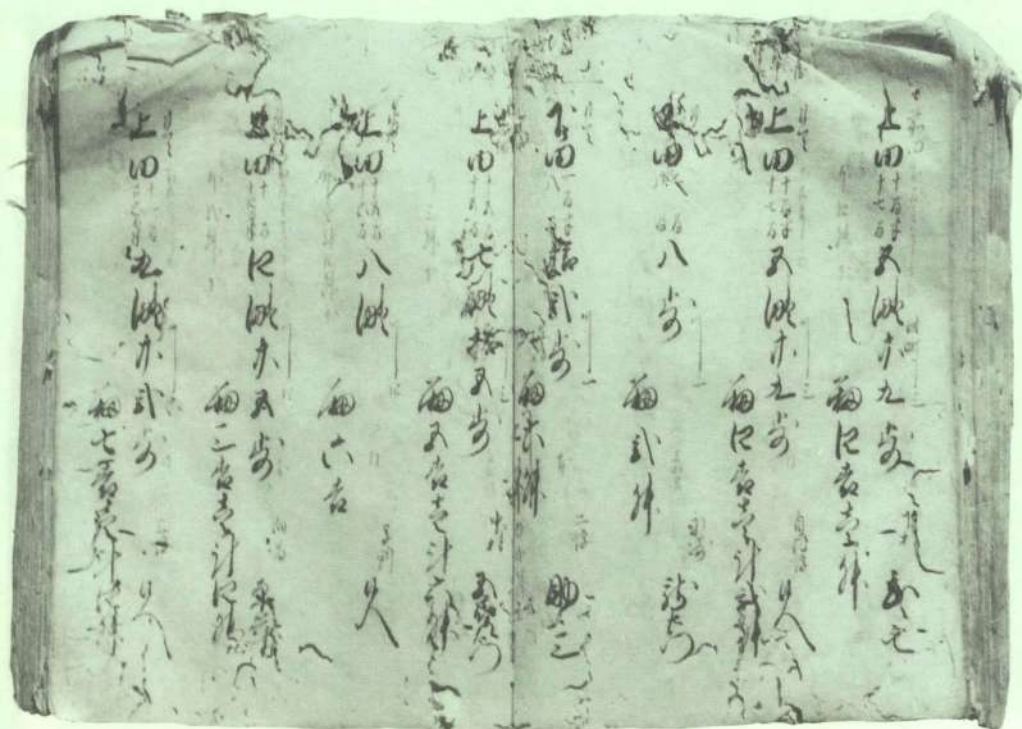
印刷所 第一法規出版株式会社



「隅州贈於郡田口村御検地門割竿次帳」

この史料は、椎原家の文書の一つで、安永九年（一七八〇）のころの田口村の門屋敷について記載したものである。
江戸時代中期の霧島の農村構造を説明する数少ない資料。

（第三編 第四章 第三節に全文掲載）



湯

大夏二汁二杯二分

一茶拾四

細式合八分

上

八割振式

大夏二汁二杯二分

一茶拾四

細式合八分

上

大夏二汁二杯二分

一茶拾四

細式合八分

上

大夏二汁二杯二分

大夏二汁二杯二分

一茶拾四

大夏二汁二杯二分

大夏二汁二杯二分

中

おやちり

中

おやちり

中

おやちり

中

おやちり

中

おやちり

中

おやちり

中

おやちり

中

おやちり

